

五月の園藝

— 幼稚園での準備 —

大 岩 金

前月播種したものの、手入

草花

苗床に播種したもので本葉が四、五枚出たならば、他に苗床と同様の床を作り、此處に條間、株間各、十糎位にして移植をする。

花園、その他適當の場所に直播したもの、即ち移植を嫌ふものは込み合つた苗のうち、なるべく丈夫さうな、害虫なごに食べられてゐないやうなもの丈を残して、前同様の間隔になるやうに、間引をする。

移植したものには一週間位経つてから、間引をしたものには直後、條間に淺く溝をつけて稀い液肥をやる。

尙サルビヤ、コスモス等のやうに、脇芽の出易いものは、最初本葉が七、八枚出た時に、五、六枚残して摘心し、その後脇芽が伸びて、葉が四、五枚出た時に、一、三枚残してその先を止める。このやうにして脇芽を數回繰返して出させる時は、一株で十數本の枝は容易に出させる事

が出来、花壇や鉢植にした場合に、形がよい。

蔬菜

二十日大根は發育が早いので、今月に入るに、もう大分赤い根がふくらんで来る。今になつて尙ふくらんでゐないやうなものは不良なものであるから間引く。あまり込み合つた部分も間引する。

間引した後、條間に淺く溝を作つて稀い液肥をやり、その上に覆土する。同時に根の地上にうき出てゐるものには土寄をして根をかくしておく。

玉蜀黍の苗は適當な場所に定植する。

菜豆、枝豆、落花生等には稀い液肥をかけてから後、一週間位経つたならば、根元を少し離れた所に草、木灰のいづれかを撒いてやる。

ツルナは發芽する迄にはかなり日數がかかるが、その後はすんぐ茂つて来るから十日に一回位の割合で稀い液肥をやるに、葉の軟かいものが長く引續いて收穫出来る。

その他三月に植付けした馬鈴薯で莖が一株から數本も伸びて居るものは、丈夫さうなものを、一、二本丈残して根元から抜き取る。この時左手で根元を壓へ薯每抜かないやうに注意する。次に畦の間を淺く中耕し三倍位に稀めた下肥を入れ、覆土と同時に土寄せをする。

草苺に敷藁をしてない時、又は實の下から外れてゐるものに敷藁をする。

播種又は挿木するもの

草花

朝顔、夕顔は一般の春播草花よりも少し遅れて、五月早々に播く。即ち八十八夜頃がその適期であり、今年は二日が是に當つてゐるが、毎年二日か、三日である。

サルピヤ、マツバボタンなど、夏秋の花壇用草花のまだ播種してないものは早く播くやうにする。

大菊の挿木をする。昨年咲いた莖の近くに澤山新しい莖が伸びてゐるから、この莖の先の方を葉を五、六枚つけて切り、この枝の下の方の葉を二、三枚切り取り、豫め鉢、又は箱に川砂を入れておいた中に直ぐ挿す。澤山挿木する場合には一先づ切取つた枝を清水中に入れておき、全部挿す用意が出来た所で挿すやうにすればよい。挿したものは根の出る迄は直接日光に當てぬこと、灌水に注意することが大切である。

蔬菜

前月掲げたものは今月になつてから播種しても差支へない。

植付けするもの

蔬菜

茄子、トマト、胡瓜などの苗が大きくなり苗屋の店頭に出て来る。

適當な場所を選んで植付ける。連作を嫌ふ茄子は一度栽培した所は六年以上、トマトは四年以上休作しないといかないから注意を要する。鉢、箱を用ひる場合は土を替へる事は勿論であるが、用器も充分洗つてから使用するやうにする。

そしてトマトには直ぐ假の支柱を立て、莖をゆるく結びつけておく。一週間も経つて充分に活著したならば、稀い液肥をやり、同時に本支柱に取替へる。

胡瓜は二年位休作すればよい。

甘藷の蔓を挿植する。

關東地方では多く地拵へを鞍築にして舟底挿にしてゐるやうである。鞍築といふのは全體の土地を軟かく耕した後、藪蔓を挿す部分を饅頭形に土を盛る事である。株間五十糎内外になるやうに土を盛つて行く。この中に、堆肥、藁灰などを基肥として入れる。

畑の用意が出来たならば諸の苗を挿す。苗は二十糎位伸びたものに葉が十四、五枚もついているれば上等である。徒長したものであれば七、八枚位しかついているものもある。

この苗を盛つた土の南側に、先の方を北向にするやうにして淺く上下を出して土中に挿入する。但し上部を多く、下部は二、三糎位地上に出しておく。即ち舟底のやうに彎曲させて挿入するのである。

甘藷は元來溫暖な氣候を好むものであるから挿植した後には灌水する必要はない。

害蟲驅除

櫻、バラ等に毛蟲がつく。早く氣をつけて方々へ擴がらないうちに焼き取るさか、切つて差支へない枝ならば靜かに枝毎切つて始末する。

バラにはこの外蚜蟲がつき易い。是は手で潰してもよいが澤山であれば石鹼(デリルス石鹼ならば尙ほ結構)を水にまかして噴霧器で蟲體が充分濕ふ程にかける。(晴天、無風の日にすること)

夜盜蟲が第一回の發生をする。種々の草花や、蔬菜類の葉裏を見るに無數の小さい堅い卵がついてゐるのが見付かる。この時に卵を取つて焼くのが一番よいが、一度孵化したならば、なるべく早く見付けて取り除くやうにせねば方

々に散り大方の葉を穴一ぱいに食ひ盡す。出たばかりの時はまだ葉裏にかたまつてゐるから靜かに下に何か受けておいて潰せば容易に驅除出来る。

青蟲

花から花へ飛び廻る蝶々をさも楽しさうに追ひ廻る幼兒を見ては、これを殺す事は氣の毒な感じがするが、この幼蟲は青蟲となり、かなり大害を與へる。夜盜蟲程に一ヶ所に澤山發生はしないが蔬菜類、特に葉菜類にあつては大きな穴をあけてゆくのではは見つかり次第取つてしまはなければならぬ。

地上の害蟲と同時に地中にも害蟲が潜んでゐる事を忘れてはならない。

灰色をした根切蟲は土際の所の莖を食ひ切つてしまひ、一本食ひ切れば、又次の株に移つて行く。萎れた苗が植つたまゝになつて居れば大抵その苗の下、又は近所にこの根切蟲がゐるから捕殺しなければならぬ。

頭部の黄色、胴の白い金龜蟲の幼蟲も根切蟲と同様の害を與へるが、是は根を食害して行くのである。同じく度々見廻つて捕殺することが必要である。